

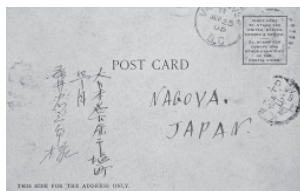
アメリカからの手紙 ―藤井達吉の滞米時期に関する報告―

土生 和彦

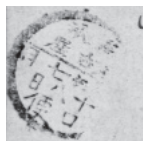
二〇一四(平成二六)年度、藤井達吉の姪・當子の娘である飯塚赫子氏、都築咲子氏のお二人から、それぞれの手元に伝えられた藤井達吉の作品や資料が寄贈された。¹これらは藤井から直接贈られたものや、當子の嫁ぎ先である真鶴の佐藤家で日常的に使用されていたもの、保管されていたものが中心である。それぞれのコレクションの詳細については順次整理、調査を進めていく予定であるが、まずは本稿において、都築咲子コレクションに含まれている藤井がアメリカ滞在中に郷里の家族に宛てた複数の絵葉書、手紙について報告することにした。というのも、これらに記された内容や捺されている消印を調査したところ、従来考えられていた藤井の滞米時期を修正する必要があるが生じたためである。結論を先に述べれば、藤井の滞米時期は一九〇五(明治三八)年六月から同年一二月であり、参加したという万博は「セントルイス万国博覧会」ではなく、オレゴン州ポートランドでの「ルイス・クラーク一〇〇周年記念万国博覧会」³であることが明確となった。これは従来想定されていた時期から約一年遅れるものである。以下、これまでの藤井の滞米時期に関する言説を振り返った上で、今回確認された絵葉書等を見ていくことにしたい。

これまでの言説

渡米について触れた藤井自身の発言に近い記録のひとつに、一九五六(昭和三一)年に碧南市市史編纂所が発行した『碧南市史料第十一輯 藤井達吉翁』がある。これは当時の市の関係者が藤井から直接聞き取りをした内容をもとに編んだもので、発行後に藤井自身が直接訂正補筆したものが残されている。⁴その中には「明治三十七年二十四才の時、米國ポートランドの博覧會に七宝出品の爲服部氏(天野富之助氏兄)に隨行して渡米された。日露戰爭中であつたが、君一人位ならと、青年の翁に旅券が下附されたと云う。在米期間中ボストン博物館を見学し：(中略)：ところが、七宝が不評であつた為、明治三十八年米國から歸國された」と記されている。一方、一九六二(昭和三七)年に書かれた自筆の自叙伝『矢作堤』⁵には、「日露コーワタンパン(引用者註：講和談判。ポーツマス条約)の年、米國加州ロウサンゼ



①-1 葉書表



①-3 消印2



①-2 消印1

ルスに万国博覧の時、三井物産にたのみ桑湊（引用者註：サンフランシスコ）とニューヨーク、ボストンにてオクシオンをするべくやられたが、本家の与四郎氏の御供で有ったが、眼がわるくバンクーバーに止められて万事手ちがい。自分一人であちこち商売下手のわれ、何で好結果を得様。とにかく一人にて帰る（引用者にて適宜句読点を補った）とある。ポーツマス条約が結ばれたのは一九〇五明治三八）年であるから、両者の間で既に訪米時の年が食い違っており、博覧会が開催された場所についても異なる記述となっている。

藤井達吉研究の嚆矢である山田光春はこの両者の記述を指摘したうえで、その著書『藤井達吉の生涯』の中で「岡倉天心が横山大観、菱田春草、六角紫水を伴って渡米したのも宣戦の布告された明治三十七年の二月であった。達吉は万国博覧会ロスアンゼルスかポートランドで開かれたように言っているが、天心は五月にセントルイスの万博の会場で『日本の見地より見たる近代芸術』との講演を行ない好評を得ているのだから、達吉が七宝作品を出陳したのもそこであつたはずである」と指摘した。この指摘は、後に再興院展に日本画を出品するなどの活動を展開した藤井のことを考えるにあたっては、非常に魅力的なものである反面、前記資料からの推測以外には裏付けるものがなかった。山田自身も「滞米中の達吉が商用でどのように活躍したかは明らかでないが、ボストンにかなり長期間滞在して博物館に通ったことは間違いない。しかし天心がボストン博物館の東洋部顧問に就任したのも、大観と春草がニューヨークとボストンで作品を展覧したのもこの時であつて、彼がそうしたことを知らなかったとは思われないのに、どうしたわけか、それらのことに触れて語った言葉は見当たらず、そうした関係を明らかにすることはできない」と述べ、状況証拠でしか語れないもどかしさを表明している。けれどもこの山田の推測には一定の説得力とある種の誘惑があつたため、以後藤井の略歴に触れる中では、ほぼ例外なく「セントルイス万博に関わつての明治三七―八年にかけての訪米」が前提とされることとなった。これは藤井の名を冠する当館においても例外ではなく、筆者もまたこの前提に沿ったかたちで文章を記したことがある。

アメリカからの手紙

では、今回都築コレクションの中に確認された一六通の絵葉書や手紙と、『藤井達吉の生涯』四九頁に画像が掲載されている絵葉書の計一七点について発送元消印の日付順に見ていくことにしよう。¹¹



②-4 葉書裏



②-1 葉書表



①-4 葉書裏



②-3 消印2



②-2 消印1

①一九〇五(明治三八)年六月三日 バンクーバー発消印

【葉書表】(①・1)

NAGOYA / JAPAN

大日本名古屋市塩町／四丁目／藤井忠三郎様

(消印1) VAN ● ● ● ● VER / JUN23 / 05 / BC(①・2)

(消印2) 尾張／名古屋／●●●●年七月／十八日／ロ便(①・3)

【葉書裏】(①・4)

拝呈仕候／去ル廿一日與四郎様御同道無事上陸仕候間●●●し御安神被下度候何レ余重便に申上候●●●上候桑湊／へ出立仕候間着桑ノ上申上候也何斗十分御身／体養生專一●●●候也 拝具／バンクーバーにて 藤井達吉

※今回確認された中で最も早い日付のもの。宛名は父・忠三郎宛であるが住所は名古屋市内になっている。「六月(二一日)に無事(バンクーバーに)上陸したのでご安心ください」と知らせ、サンフランシスコへ向かうので着いたらまた知らせる旨を記す。同道の「與四郎」は、『矢作堤』にも記されており、この後バンクーバーに止められることになったという。なお、消印の日付から、およそ一ヶ月で日本に届いていることがわかる。

②一九〇五(明治三八)年七月一日 サンフランシスコ発消印

【葉書表】(②・1)

NAGOYA / JAPAN

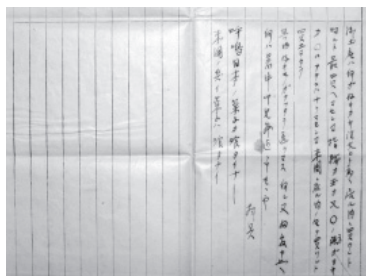
大日本名古屋市塩町四丁目／藤井忠三郎様

(消印1) SAN FRANCISCO CAL. ST. ● / JUL15 / 5AM / 1905(②・2)

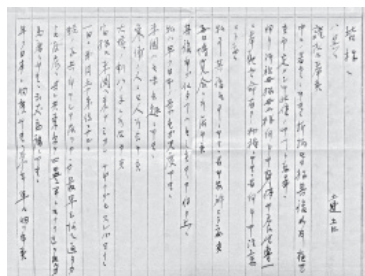
(消印2) 尾張／名古屋／廿八年八月／十日／イ便(②・3)

【葉書裏】(②・4)

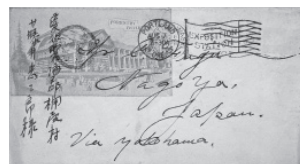
明後十六日博覧会へ出立可仕候也何レ細報ハ／着市の上可申候也三河へ宜敷願上候也 拝具／達



③-5 手紙(2枚目)



③-4 手紙(1枚目)



③-1 封筒表



③-3 消印3



③-2 消印1,2

吉／七月十四日

※同じく名古屋市内の住所宛。七月十四日付で「明後日の一六日に博覧会に出立する」旨を記し、細かいことは着いた後にまた知らせるとする。

③一九〇五明治三八)年八月七日 ポートランド発消印

【封筒表】(③・1)

Mr. C.Fuji / Nagoya / Japan / Via yokohama

愛知碧海郡棚尾村／藤井忠三郎様

(消印1) PORTLAND / AUG 7 / 10:30A / 1905 / ORE(③・2)

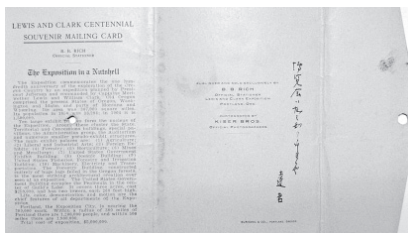
(消印2) SEATTLE WASH. / AUG 8 / ●●PM / 1905(③・2)

(消印3) 三河／大濱／廿八年八月／二十五日／二便(③・3)

【封筒裏】朱文方印「藤井達吉」

【手紙】(③・4・5)

皆様／八月六日 達吉／謹啓奉候／中々ノ暑左さに御座候折柄皆様其後如何遊サレ／候や定メシ御
 壮健ノ御事ト存奉候／何斗御祖母様母上様何斗御身体御養生専一／ニ奉願上候命有テノ物種に御座
 候間何斗御注意／被下度候／私事其後無事に御座候間御安神被下度候／毎日博覧会に行居申候／其
 後何ゾ化ツタ事ハ無し候や御伺申上候／私ハ早ク日本ノ景色が見度御座候／米國ハ無味無趣に御座
 候／東浦ノ人ニ四人行合申候／大濱ノ利ハノ子に行合申候／●様も米國ヘ来テミカン チギリデモ
 スレバヨイニ／一日に式円五十錢位にナルニ／蛙ノ子供何ラシテ居リ申候や最早三河ヘ返タカ／ト
 モ存居候其レ共東京テ四疊半ニモグリ●テ居ルカ／馬鹿右に御座候云丈馬鹿に御座候／早ク日本に帰
 度御座候来年早々帰り申候／御土産ハ何ガ好キカ御注文被下度候居ル内に買ワント／帰ルト最買ヘ
 マセンヨ指輪カ玉カ又○ノ方ガヨキ／カ ○ハアテニハナリマセンヨ米國に居ル内ノ金テ買ワント
 ／買エヌカラ／其内好キモノガアツタラ送りマス 何レ又細報申上候／何ハ暑中御見舞迄に御座候
 也／拜具／呼鳴日本ノ菓子カ喰タイナー／米國ノ臭イ菓子ハ喰タナイ



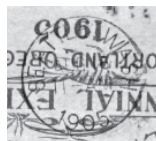
④-6 包紙内



④-4 包紙裏



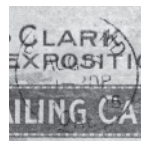
④-1 包紙表



④-5 消印3



④-3 消印2



④-2 消印1

※①、②の宛先は名古屋市内の住所であったが、ここからは故郷、碧海郡棚尾村（現在の碧南市棚尾地区）の住所になる。宛名の「Via yokohama」は「横浜経由」の意味。封筒はルイス・クラーク一〇〇周年記念万国博覧会のもので、アメリカ側の消印は二つ重なって見にくいですが、ポートランドからシアトルを経由して郵送されたことがわかる。手紙の内容は八月六日付で書かれた便せん二枚にわたる暑中見舞い。冒頭で祖母、母をはじめとした家族の身を案じ、自分も無事であることを知らせ、毎日博覧会に行っている事、アメリカは「無味無趣」であって日本の景色を見たいこと、知り合いに行き会ったことなど近況が書かれる。途中「ミカンちぎりでもすればよい、一日に二円五十銭ぐらいにはなる」と述べるのは、自らの経験からの事であろうか。後半ではお土産は何がいいかアメリカにいるうちに注文してくれるように記し、末尾で「ああ、日本の菓子が喰いたいな、アメリカの臭い菓子は喰いたない」と食べ慣れない異国のお菓子の事を嘆いている。

④一九〇五（明治三八）年八月一六日 ポートランド発消印

【包紙表】（④・①）

NAGOYA / JAPAN

愛知縣碧海郡／棚尾村／藤井忠三郎殿

（消印1）PO ● ● ● AND / AUG 16 / 1-30P / 1905 / ORE（④・②）

（消印2）三河／大濱／廿八年九月／●日／口便（④・③）

【包紙裏】（④・④）

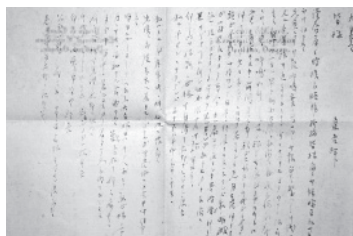
（消印3）SEATTLE, WASH. / AUG 18 / 11-PM / 1905（④・⑤）

【包紙内】（④・⑥）

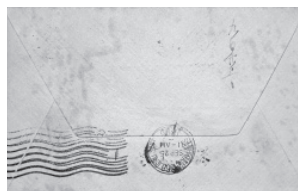
博覧会ハ左之如ク御座候也 達吉

※ルイス・クラーク一〇〇周年記念万国博覧会場の風景写真を印刷した、記念カードの郵送セット。現状では包紙から分離しているものの一連のカードも残されている。

⑤一九〇五（明治三八）年九月二三日 ポートランド発消印



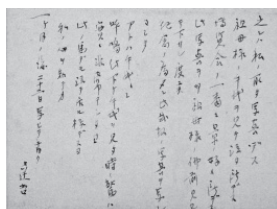
⑤-6 手紙



⑤-4 封筒裏



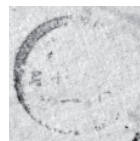
⑤-1 封筒表



⑤-7 同封写真1裏



⑤-5 消印3



⑤-3 消印2



⑤-2 消印1

【封筒表】(⑤・1)

NAGOYA JAPAN

愛知縣碧海郡棚尾村／藤井忠三郎様

(消印1) PORTLAND, ORE. / SEP23 / 1 30PM / 1905(⑤・2)

(消印2) ●●●●●●●●●●十月●一日●●●●(⑤・3)

【封筒裏】(⑤・4)

九月廿三日

(消印3) SAN FRANCISCO, CAL. ST. ●●●●SEP25 / 11-AM / 1905(⑤・5)

【手紙】(⑤・6)

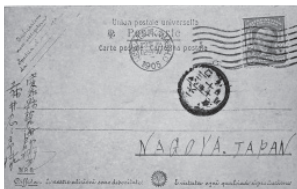
九月二十三日／皆様 達吉拜／謹啓奉候時候不順勝ノ折柄皆様益々御機嫌宜敷御座候／や御伺申上候／先便にテノ御報呼鳴實に悲ムベキ御報實ニ驚又申候手紙ヲ／見ルト其様御返事ヲ出シ申候今ニナツテモマタウソノ様に御／座候 早く一日モ早く帰国仕度ト存居候 毎夜三河ノユメ斗／リ御座候 呼鳴如何／右ノ様ナ御通知ノアロウトハ／ユメに存居ラス申候前便重二郎様ガ三河カラ手紙ガ来タヤウ／何事カト少々不シギニ思テ居リマシタ先月廿日頃何タカ／頭ガイタク心持ワルク日本に行度クテ云ニ云ワレズ私ノ明友／が寂●居タカラ其人ヲカン病シテ居マシタ其時ガ何タカ／泣テ致方ガナカツタ今カラ兄に其レガ知ラレカト存居候／●リゲナ事ハ何レ帰国次第御話申上可候／何斗皆様別に母様御身体ヲ大切ナシ下サレ度候／私も●サンニクラブレバ末タ不幸中ノ幸ニ御座候／私ハトモ角来年中ニ帰ル●●●●被居候／先便に式度東京ヘ送タモノガアルガ御受取被下度や御伺申／上候／明日ニユーヨークヘ出立仕候昨日ハキノヘ子ニテ祖母様ノ一ケ／月に御座候間私テモ念佛申上候 觀音様ヲ拜し居申候／多分本月中に着シマスカラ着タラ又手紙ヲ出シマス／何斗皆様御身体ヲ大切に願上候／手紙ガ来テカラ本日迄一週間シ●●●●被申候／何レ又後便に申上候也 拜具／父上ニハ別に手紙ヲ出シに申候間左様申下サレ度候也／呉々も御身大切に願上候也

【同封写真1裏】(⑤・7)

之レハ私ノ取タ写真デス／祖母様ノ手紙ヲ見テ泣タ所デス／博覽会ノ一番二景ノ好イ所デス／此



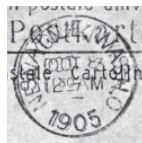
⑥-4 葉書裏



⑥-1 葉書表



⑥-3 消印3



⑥-2 消印1、2



⑤-8 同封写真1



⑤-9 同封写真2

写真ヲ御祖母様ノ佛前見セ／テ下サレ度候／記念ノ為メニ此式枚ノ写真ヲ写シ／マシタ／アトハ手紙ニ／呼鳴此下デ手紙ヲ見タ時ノ驚ハ／實ニ非常デシタヨ／此ノ馬デモ泣テ居ル様デスヨ／私ノ心ヲ知テカ／一ヶ月ノ後二十二日写シテ書ク／達吉

※ルイス・クラーク一〇〇周年記念万国博覧会の便箋一枚に書かれた九月二三日付けの手紙と写真二枚(⑤・8・9)が同封されている。写真は博覧会の会場で「博覧会の一番に景色の好い所」といい、一枚の裏面には九月二日に書いた便りが記されている。手紙の内容は、先に受け取った「悲しむべき報せ」について、「実に驚き」今になってもまだ嘘のよう「一日も早く帰国したい」と述べ、また、その前後に感じた虫の報せのような思いを記す。この「悲しむべき報せ」とは、同封写真裏面に書かれた「祖母様の手紙を見て泣いた所です」「この写真を御祖母様の仏前に見せて下さい」という記述や、手紙後半の「昨日は甲子で、祖母様の一ヶ月でございましたので、私でも念仏いたしました。観音様を拝んでおりました」といった記述から、祖母の死であると推測される。このほか手紙には「翌二四日にニューヨークへ向けて出立し、おそらく九月中に着くのでまた手紙を出す」旨が記され、写真には「この馬でも泣いている様ですよ。私の心を知ってか」と祖母への思いを記す。なお感嘆詞「嗚呼」が「呼鳴」となるのは、藤井の書き癖のようである。

⑥一九〇五(明治三八)年一〇月三日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑥・1)

NAGOYA JAPAN

愛知縣碧海郡棚尾／藤井忠三郎様

(消印1) NEW YORK N.Y. STAO / OCT 3 / 11 30 AM / 1905 (⑥・2)

(消印2) SEATTLE WASH. / OCT 8 / 12 M / 1905 (⑥・2)

(消印3) 三河／大濱／廿八年十月／三十日／口便 (⑥・3)

【葉書裏】(⑥・4)

九月三十日／無事／ニューヨークに／着仕候／余ハ後便

ニューヨークニテ 多津 たつ吉

※九月三十日付で無事ニューヨークに着いたことを知らせる。署名は「たつ吉^{多津}」とする。

⑦一九〇五(明治三八)年一〇月二日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑦・1)

Mr. Fujii / To Japan

(消印1) MADISON SQ. ST. N.Y. / OCT 26 / 8-PM / 1905 (⑦・2)

(消印2) SEATTLE. WASH. / OCT 26 / 3-PM / 1905 (⑦・2)

(消印3) ●●大濱 / 廿八年十一月 / 十六日 / イ便 (⑦・3)

皆様御壮健です^春か / 折角大切にして下され^尔 / 度候私は無事在^礼れ / ます外様へは何分 / よろしく御
傳言被下度く / 拝具 / 十月廿一日

愛知縣碧海郡棚尾村 / 藤井忠三郎様

【葉書裏】(⑦・4)

在米国ニューヨーク市 / たつ吉^{多津}

※十月二十一日付。皆の様子を伺い、自らの無事を知らせる。署名は「たつ吉^{多津}」。ここでいう「折角」は精一杯といった意味。

⑧一九〇五(明治三八)年十一月三日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑧・1)

Mr. Fujii / Nagoya / Japan

愛知縣碧海郡棚尾村 / 藤井忠三郎様

(消印1) MADISON SQ. ST. N.Y. / NOV 3 / 5-PM / 1905 (⑧・2)

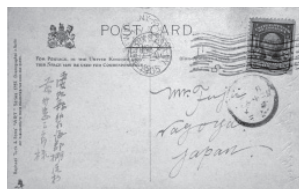
(消印2) NEW YORK. N.Y. / FOR ST. A. / NOV 3 / 5-PM / 1905 (⑧・2)

(消印3) SAN FRANCISCO. CAL. / NOV 8 / 11-AM / 1905 (⑧・2)

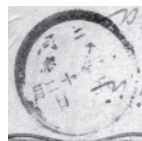
(消印4) 三河 / 大濱 / ●●年十二月 / 五日 (⑧・3)



⑧-4 葉書裏



⑧-1 葉書表



⑧-3 消印4



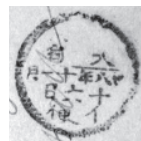
⑧-2 消印1,2,3



⑦-4 葉書裏



⑦-1 葉書表



⑦-3 消印3



⑦-2 消印1,2



⑩-3 葉書裏



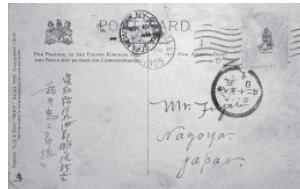
⑩-1 葉書表



⑩-2 消印1,2



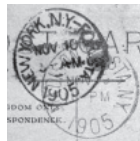
⑨-4 葉書裏



⑨-1 葉書表



⑨-3 消印3



⑨-2 消印1,2

【葉書裏】(⑧・4)

天長節を祝ひ奉る 在米 たつ吉^{多津}

※天長節(天皇誕生日)：当時は十一月三日(を祝して送ったもの。署名は「たつ吉」^{多津})。

⑨一九〇五(明治三八)年十一月九日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑨・1)

Mr.Fuji / Nagoya / Japan

愛知縣碧海郡棚尾村四三／藤井忠三郎様方

(消印1) MADISON SQ. STA. N.Y. / NOV 9 / 11-PM / 1905(⑨・2)

(消印2) NEW YORK N.Y.-FORSTA. / NOV 10 / 5-AM / 1905(⑨・2)

(消印3) 三河／大濱／廿八年十二月／五日(⑨・3)

【葉書裏】(⑨・4)

手紙式通に^尔拝見仕候／御無事^之の由／安神仕候／私は／無事／御安神／被下度く／余は後便
在紐育／たつ吉^{多津}

※送られてきた手紙をみて安心した旨を記し、自らの無事を伝える。署名は「たつ吉」^{多津}。

⑩一九〇五(明治三八)年十一月一九日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑩・1)

Mr.Fuji / NAGOYA / JAPAN

愛知縣碧海郡棚尾村／藤井忠三郎様方

(消印1) MADISON SQ. STA. N.Y. / NOV 19 / 12-PM / 1905(⑩・2)

(消印2) NEW YORK N.Y.-FORSTA. / NOV 19 / 5-AM / 1905(⑩・2)

(消印3) SAN FRANCISCO CAL. / 判読困難 / 1905(⑩・2)

【葉書裏】(⑩・3)

十一月十九日／母上様ニハ／御身体大切ニ／願上候／姉様モ皆ナ／大事ニ願い●ヨ／萬々は／東京／カラ／私ハ無事／余ハ／後便

※十一月十九日付。母、姉ら家族の体を気遣い、自らの無事を知らせる。

⑪一九〇五明治三八)年十一月二五日 ポストン発消印

【葉書表】(⑪・1)

Mr. Fuji / Ichiken / Japan

愛知縣碧海郡棚尾村四三／藤井忠三郎様方

(消印1) BOSTON.MASS. / NOV25 / 10 30AM / 1905(⑪・2)

(消印2) F BOSTON.MASS. B / NOV25 / 5 30PM / 1905(⑪・3)

【葉書裏】(⑪・4)

私は昨日(ボストン)と云所へ参りました／ニューヨークカラ式百哩斗りの所でヨイ所です／此度は視察丈ですから本日中に元へ帰ります余は後便に申上ます／此畫古きは白人の見たる日本人ノ画です／馬鹿／しいではありませんか／Bostonニテ たつ吉

※藤井がボストンを訪れたことがわかる葉書。「ニューヨークから二百マイルばかりの所で、良い所です」と感想を述べる。視察というのはボストン美術館の見学だろうか。絵葉書の絵柄について、「白人の見たる日本人の絵」であり「馬鹿馬鹿しいではありませんか」と批判する。署名は「たつ吉」。宛名の愛知県を「Ichiken」と書いているのが面白い。

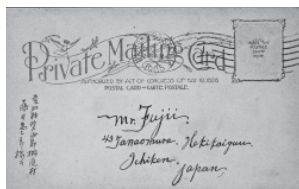
⑫一九〇五(明治三八)年二月五日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑫・1)

Mr. Fuji / 43 Tanaomura Hekikaigun / Ichiken Japan

愛知縣碧海郡棚尾村／藤井忠三郎様方

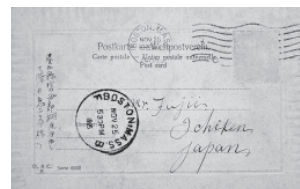
(消印1) MADISON SQ. ST. N.Y. / DEC5 / 7 30AM / 1905(⑫・2)



⑫-1 葉書表



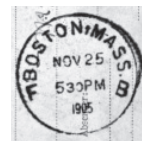
⑪-4 葉書裏



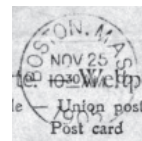
⑪-1 葉書表



⑫-2 消印1



⑪-3 消印2



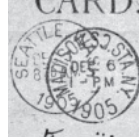
⑪-2 消印1



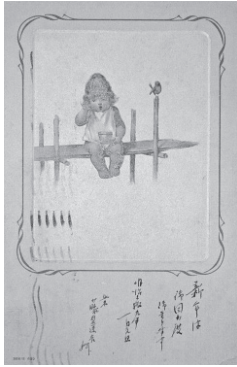
⑫-3 葉書裏



⑬-1 葉書表



⑬-2 消印1,2



⑬-3 葉書裏

【葉書裏】(⑫・3)

追々寒く成りました^多／母上様初め皆様／御壮健と聞私も／無事で日本を非常^ルに喜で居ます／先便に御通して／下さいました^多／野菊山菊等／種々奈秋草も／最早枯草になり／庭に又は初霜雪／トモ時候と存ます／枯木立の様と^能●／●に思^ル●て居ます／私も来る廿六日発て／一月十日ノ桑湊発／船て帰ります／先日ボストンに行た^多／時左ノ如きものを／笑てはいけまんよ／見渡せば／見ゆるとも只枯木立／おもひ流るゝ／小川のほとり／かろく^飛シ音して／りく^久●●／何れ定めなき身に^ル／何傳●●ん小き鳥の(下へ)／(上カラ)清き美しき声も／呼鳴故郷の^能／なつかしき哉^多／何れ又後便に^多／一月の廿七日頃着きます／サヨナラ／皆様宜敷／十二月四日／ニューヨークにて／たつ吉^多／
コノ子ハ カワイラシー子デシヨ

※一二月四日付。ご機嫌伺いと自らの無事を知らせるとともに、(二月二十六日にニューヨークを発って、一月十日サンフランシスコ発の船で帰る予定を記す。また、おそらくは⑪の葉書で触れられたボストン行の際に詠んだ歌「見渡せば 見ゆるとも只 枯木立 思い流るる 小川のほとり」を披露する。今回の書簡群の中でボストンに触れているのはこの2枚のみだが、ニューヨークでの滞期間は二か月半ほどあったことがわかるので、訪問回数としてはもう少しあってもおかしくはない。絵葉書の写真の子について「この子は可愛らしい子でしょ」と感想を記しているのが面白い。署名は「たつ吉」。

⑬一九〇五(明治三八)年十二月六日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑬・1)

Mr. Fujii / Ichiken / Japan

愛知縣碧海郡棚尾村四三／藤井忠三郎様

(消印1) MADISON SQ. ST. N.Y. / DEC 6 / 1-PM / 1905 (⑬・2)
(消印2) SEATTLE, WASH. / DEC ● / 8 30AM / 1905 (⑬・2)

【葉書裏】(⑬・3)

新年は／御目出度／御座ります／明治三拾九年／一月元旦／在米／藤井達吉拜

※新年を祝ういわゆる年賀状。日本側の消印は見当たらないが、発地の消印からすると、ちょうど良い頃に着いたのではないだろうか。

⑭一九〇五明治三八)年二月一日 ニューヨーク発消印

【葉書表】(⑭・1)

Mr. Fuji / Nagoya / Japan

名古屋市塩町四丁目 藤井忠三郎様

(消印1) MADISON SQ. ST. A. N. Y. / DEC 11 / 2 30 PM / 1905 (⑭・2)

【葉書裏】(⑭・3)

拝呈仕候／●義来る／拾七日発廿九日／桑湊出航／にて帰国^能／途^尔に付き／申候余は／拝眉^之の上／申上候先は／右御案内迄／青々 達吉拝／父上様／10w21st st / New York city

※(一二月)一七日にニューヨークを発ち、二十九日にサンフランシスコを出港する船で帰国の途に着く旨を父に案内する。⑫の手紙と予定の日がちが異なるが、予定を早めたのかもしれない。「拝眉の上」とはお目にかかったの意味。末尾に書かれた「10w21st st / New York city」であるが、「ニューヨークの10th Aveとw21st stの交差点」と考えれば、ニューヨークでの滞在場所だろうか。ニューヨークから出された葉書の消印のほとんどに含まれる「MADISON SQ」(マディソン・スクエア)とも近い可能性は高い。また宛名の住所については①、②以来の名古屋市内であり、この葉書では内容にもあえて父親宛を明示していることからすれば、当時父親は名古屋市内に居住していたのだろう。他の棚尾宛てのものは宛名こそ父親の名前だが、どちらかと言えば母親や姉を中心とした「家族」宛と考えられる。

⑮一九〇五明治三八)年二月二十四日 ロサンゼルス発消印

【葉書表】(⑮・1)

Mr. Fuji / Ichiken Japan

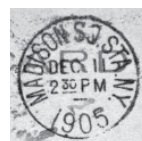
愛知縣碧海郡棚尾村 藤井忠三郎様



⑭-1 葉書表



⑭-3 葉書裏



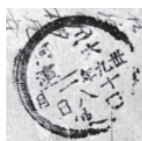
⑭-2 消印1



⑮-1 葉書表



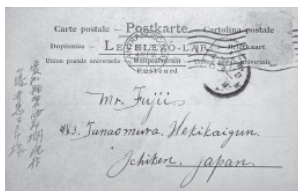
⑮-2 消印1



⑮-3 消印2



15-4 葉書裏



16-1 葉書表



16-3 消印2



16-2 消印1



16-4 葉書裏

(消印1) LOS ANGELES CAL / DEC24 / 1 30PM / 1905(15)・2)
(消印2) 三河 / 大濱 / 廿九年一月 / 十八日 / 口便(15)・3)

【葉書裏】(15)・4)

拝呈仕候 / 本廿三日(カリフラニヤ州) / (ローサンゼルス)に着^多した / 一兩日用テ / 達し^多 / 桑湊へ / 出る / 心得^ルに御座候 / 細報は / 後便に^ル
ローサンゼルス市 / 東洋ホテル内 / 藤井達吉拝

※この絵葉書のみ都築コレクション内のもではなく、『藤井達吉の生涯』四九頁に掲載されているものである。¹⁴(二月)二十三日にカリフォルニア州ロサンゼルスに着き、一兩日中にはサンフランシスコに向かうつもりである旨を知らせている。

16 一九〇五(明治三八)年二月二十八日 サンフランシスコ発消印

【葉書表】(16)・1)

Mr. Fujii / 43 Tanaomura Hekikaigun / Ichiken Japan
愛知縣碧海郡棚尾村 / 藤井忠三郎様

(消印1) SAN FRANCISCO CAL / DEC28 / 4 30PM / 1905(16)・2)
(消印2) ●河 / ●濱 / ●年一月 / 十八日 / ●便(16)・3)

【葉書裏】(16)・4)

三河^能の皆様へ / 桑湊^ルにて / 藤井達吉拝

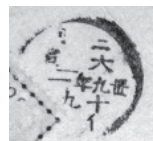
昨日ローサンゼルス^ルヲ出發仕本日午 / 前当サンフランシスコへ着仕候愈々当地^ルヨリ乗船可仕候
来る三十日出航^ルに御 / 座候何れ来月十七日横濱着 / と存居候道中面き事共は / 帰国^之の上可申上候 /
道中至極無事^ルに着仕候 / 間御安神被下度候 / 先は折角御母上^ルヲ大切に / 願上候 早々拝具

※昨日(おそらく二月二十七日)ロサンゼルスを出て、当日の午前にサンフランシスコへ着いたことを
記し、続けて三〇日出航翌月一七日横濱着予定の船に乗り帰国することを知らせる。

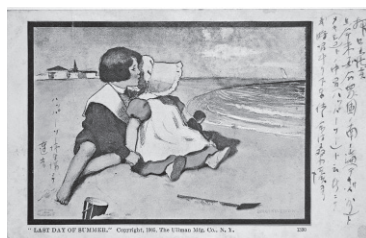
17 一九〇六(明治三九)年一月十九日 大濱着消印



⑰-1 葉書表



⑰-2 消印1



⑰-3 葉書裏

【葉書表】(⑰・1)

Mr. Fujii / Ichiken / Japan

愛知縣碧海郡棚尾村 / 藤井忠三郎様

(消印1) 三河 / 大濱 / 廿九年一月 / 十九 ● / イ ● (⑰・2)

【葉書裏】(⑰・3)

拝呈仕候 / 只今米国合衆国ノ南ノ端(テキサス州)ト / (メキシコ)トノ中間(ハッピーソー停車場)ト云所
ニテ / 式時間斗リ下車仕候 余は桑湊ヨリ
ハッピーソー停車場ニテ / 達吉

※この葉書には発地の消印が確認できない。サンフランシスコへ向かう途中の「ハッピーソー停車場」で書いたもので、「アメリカ南端のテキサス州とメキシコの中間」という説明からは現在のエルパソが想起される。時間的には着地の消印の日付や内容から、⑭と⑮の間に入るものと推測される。

おわりに

今回これらの葉書、手紙が確認されたことによって、滞米時期と訪れた博覧会についての情報が修正、更新され、藤井のアメリカでの足跡が裏付けられたことは大きな成果である。この成果をもとにあためて『碧南市史料第十一輯 藤井達吉翁』と『矢作堤』の記載を振り返ってみると、前者では「明治三十七年」という年号以外は、ポートランドでの博覧会ということを含めてかなりの程度正確に伝えていたことがわかる。¹⁵ 藤井は一九〇四(明治三七)年に数えて二四歳、翌年が満年齢で二四歳であるから、この年号の誤りは年齢の数え方の混乱が原因だったようにも思われる。『矢作堤』では、講和談判の年として一九〇五(明治三八)年は正しく伝えていたが、博覧会の場所がロサンゼルスとなっており、これは藤井の記憶違いというしかない。一方、『藤井達吉の生涯』における滞米関連の記述は残念ながら訂正されるべきものとなった。

しかしながら最後にあえて付け加えておけば、山田光春が「彼(引用者註…藤井)が世界の美術に触れることによって美術への開眼をしたのはこの時であり、生涯の方向はここで決定づけられたと見てよ



挿図2 手鏡(都築コレクション)



挿図1 カリフォルニアの農園での写真(1905年)

かろう」¹⁶と記したように、藤井にとつての転機がアメリカ訪問にあったと考えることは今回の情報の更新に関わらず、揺らぐものではないだろう。確かに大観や春草らとの接点をこの時期に求めることは難しくなり、印象的な話題であるセントルイス万博訪問という出来事は否定される。けれども、逆にポートランドでのルイス・クラーク一〇〇周年記念万国博覧会への訪問や、ボストンをはじめとした各地への確実な滞在の事実が判明したのである。このおよそ半年にわたる滞米中に藤井が多くの事物、情報に触れたことは間違いない、そしてなによりも藤井が帰国したのち、七宝店を辞めて上京し、芸術家としての独自の活動へと進んで行ったという事実は変わらないのである。

(註)

- 1 飯塚赫子コレクション及び都築咲子コレクション。ただし寄贈年度が二〇一四(平成二六)年度のため、本書年報編には掲載されていない。
- 2 日本への到着は翌三九年一月。
- 3 正式名称は「Lewis and Clark Centennial and American Pacific Exposition and Oriental Fair」。ルイスとクラークによるアメリカ西部探検ルイス・クラーク探検隊の百周年を記念して開催された博覧会。会期は一九〇五年六月一日から一〇月一五日。海外からの投資と移民も期待されていたという(『世紀の祭典 万国博覧会の美術』展図録、二〇〇四年、NHKほか)。
- 4 『藤井先生直筆の訂正による碧南市史料(第十一輯) 藤井達吉翁』(二〇〇三年、碧南芸術文化振興会)。執筆に当たっては本書を参照した。
- 5 原本は愛知県美術館所蔵。なお、『藤井達吉の全貌』展図録(二〇一三年、株式会社キュレーターズ)に、書き起した資料が付属する。
- 6 山田光春『藤井達吉の生涯』(一九七四年、風媒社)四八頁。
- 7 註6前掲書 四八～九頁。
- 8 セントルイス万博の会期は一九〇四年四月三〇日から二月一日。
- 9 直近では『生誕一五〇年記念 竹内栖鳳』展図録(二〇一四年、神戸新聞社)。当館では二〇一五年四月一四日～六月七日開催予定にこの前提を踏まえた文章を執筆しており、ここで情報の訂正、更新をさせていただきたい。
- 10 当館では、同じく二〇一四(平成二六)年度に『藤井達吉の生涯』を記した山田光春のご遺族から、同書執筆に使用された資料一式の寄贈を受けた。この画像は同書に使用した写真のフィルムの中に確認されたものである。
- 11 文字解説は碧南市文化財課の豆田誠路、小島江里子両氏の協力を得て筆者が行なった。なお改行は「」で、現段階で判読できない文字は「●」で示した。
- 12 アメリカのミカン農園で撮られた写真が残されている。(挿図1)
- 13 都築コレクションの中には、家族へのお土産と見られる、鏡背にポートランドの最高峰・フッド山が描かれた手鏡が存在する。(挿図2)
- 14 註10参照。山田は同書においてこの絵葉書を「明治三八年一月、達吉がロスアンゼルスから父に送ったハガキ」としているが、消印の確認により明らかに誤りであることがわかった。なお原本の所在は不明であるが、山田は都築氏の母である佐藤富子にも取材しており、この葉書もおそらくは佐藤家に伝来していたものであろう。
- 15 帰国の年についても、アメリカを発ったのは一九〇五(明治三八)年中のことである。
- 16 註6前掲書 四九頁。
- 17 上京の年も従来より一年遅れる一九〇六(明治三九)年、満年齢で二五歳となる年に訂正される。

【付記】

本報告は、飯塚赫子、都築咲子両氏からの貴重な作品・資料のご寄贈がきっかけとなりましたものです。ここに記して、感謝申し上げます。

藤井達吉滞米中の足跡

©ルイス・クラーク100周年記念万国博覧会[atオレゴン州ポートランド:1905年6月1日～10月15日]
(Lewis and Clark Centennial and American Pacific Exposition and Oriental Fair)

※丸囲み数字は本文中の葉書・手紙の番号

